

## 第6回 2027年国際園芸博覧会政府出展懇談会 議事要旨

■開催日時：日時：令和7年2月26日（水）13時00分～15時00分

■開催場所：三番町共用会議所 大会議室 （※オンライン併用）

■議事

○資料1について、前回の懇談会の際に、来場者は博覧会会場、特に日本ゾーン、を観覧するときテーマ館を通って園芸文化展示を見て、政府出展に来るコースに問題がないか。テーマ館は科学的な見方の展示、園芸文化館での展示は日本の古えの園芸文化、つまりカルチャーが見える展示、それに対して政府出展では日本の自然観について自然を慄き恐怖に震えた時代と自然から受けた恵沢の部分の両面性で構成している。

○作業仮説としては、そういう設定をして3つの展示にメリハリを持たせつつ、一つのイメージにして纏めていくつもり。

本日欠席委員のご意見：

○リユースを促進するための建設資機材の性能等を示すシールについては良い取り組みだと思う。来館者が見える場所に貼っても良いのではないか。貼り付ける位置やデザインは検討すべき。

○玄関部分のF.I.X窓（ガラスはめ殺し窓）など象徴的な部分を木のサッシにすることは出来ないか。

○外部の手すりについては素材を含めて考えた方が良い。

○照明で印象が変わるため、ベース照明の存在を目立たなくするようにして、構造部材は見えるようにすると良い。

○リユースの対象として、石や生きている木もあると思うが、どこまでのリソースを捉えているのか。

○隈委員が指摘しているのは、仮設の展示館(東・西分棟)に対しての意見。博覧会終了後に捨てて終わるのではなくリユースすることを前提に設計。

○基本的には持続的に活用をしていくのか。

○基本的には公園として残しますので、池や流れ、植栽した樹木をそのまま使う前提で設計している。

## ◆工程表の説明

- 建築と屋外展示、屋内展示の3つのチームで推進している途中だが、この工程表では実施設計と基本設計の段階が混在していることがおわかりだと思う。実施設計となると材料の調達や予算との関係を鑑みて検討していく必要がある。
  - 屋内展示の基本設計については、全体のイメージの大枠を固めている段階で、これから予算との関係もあり、内容を取捨選択する。これを踏まえ、本日の懇談会では屋内展示について、残すべきもの、残していきたいものなどのご意見を頂きたい。
  - 実施設計段階の屋外展示については、調達のことを踏まえて、各所への根回しなどもしていくことから具体的な工事にむけ検討を進めている状況。
  - 管理運営については、これから基本計画の段階に入り、どういった参加を得ながら管理運営をしていくか、委託をしていくのか、経費はどの程度になるか、ということを詰めていく必要がある。展示設計を固めていくのと同時並行で管理運営の大枠を決定していくことが狙いとなっている。
  - 博覧会全体としての広報、行催事については子供の参加、オンライン参加という意見も頂いている中で、これから検討を進めていく必要がある。
  - 今回の説明でよくわかった。以前のラフレシアのような目玉になるコンテンツを設置する必要があるという意見に対して、何か決定したものはあるのか。
  - 屋内展示においては宮内庁の盆栽などを導入することを作業ベースとして議論している。
  - 先日、現場の見学に赴きリアリティが出てきた。今回、協会脇坂室長から様々な資料が提示されている。この懇談会では政府出展について議論をしている。当初は理念を議論することに意味はあったが、協会をはじめとする進捗状況を踏まえた上で、政府出展にとって何が大事なのかを議論する必要がある。
  - 状況を全員で共有し、政府出展としてどこで差別化するか、特徴を出すか、存在感を意識し議論を進めることが懇談会では大切。
- ## ◆GREEN×EXPO2027 進捗状況について
- 園芸文化館では、農のテーマ、江戸の農業は取り上げていないのか。

- その予定。発展系の江戸の循環型社会の展示を検討したが、政府出展との兼ね合いを踏まえて、園芸文化に特化する形にした。農業は展示せず、差別化を図っている。
- 政府出展は、そこを踏まえているのか。
- 踏まえた上で検討を進めている。
- 政府出展では、もう少し格調高く日本そのものを代表するような展示をすべきではないのか。説明があった殆どが博覧会協会の展示で扱われる内容と重複している感がある。
- 農業機械は博覧会協会でメーカーを募集していると思うし、スマート農業も他の展示でやっている。政府出展で今一度やる必要があるのか。それとももっと強烈なことを総合的に展示するとか、実際の農場で稼働している農機を遠隔展示するなど考えられるのか。
- 協会でも、協賛や出展に当たってスタートアップ企業なども含めて民間企業に働きかけている。まだ出展勧奨のフェーズであり、3月に詳細情報を公表する予定だが現在アウトラインは固まり、残る部分を協賛でどう埋めていくか検討中。そのような意味で、政府出展における民間公募と協会は並行して動こうとしているところ。
- リサイクル、リユースは当たり前の時代になっているにも拘らず、建物の部材にラベルなどを貼ることは見栄えが良くない。
- 前段でこのような話をしているのは、本日、委員の皆様には大事な事だけ議論して頂きたいと思っている。先日事前説明を受けたが、外部の空間はこれで良い。屋内展示については、まだ細部まで検討が至っていない状況。インパクトがないと何度も言っている。事前教育、国民教育はどうなったかの説明がない。
- 私の提案は、細部はチーフディレクターに任せるという前提で、政府出展の位置づけなど、どれくらい突出して日本を代表する政府出展であることを印象づけられるか、ここで展示出来ない大きな国民的な課題をどうするかを展示し、行動変容へ繋げるきっかけにしたいということ。それこそがレガシーである。現在はまだ余りにも教科書的になっている。
- 政府出展で気になるのはP2にある「いなし」という表現。「折り合いをつけていなす」、自然を「いなす」という表現はどうかと思う。
- 報告書を作るわけではないので細かい文書の指摘は重要ではない。最終的な展示が意味を成すものとなるか、展示ではやりきれない大きなテーマである自然共生、自然観、農の将来など、方向

性がずれていないか議論をしてもらいたい。政府出展の来場者に、博覧会協会の展示よりずっと良いと言ってもらえるような展示を目指して欲しい。屋内展示は細かく分けてしまっているので、非常にわかりづらくなっている。

○P18 の流れについて、日本の農の流れはこれで良いのか。地球温暖化の問題があるから食料自給の問題が起こっているように見える。根本的に日本の農を見直さなければならない。

○食料の自給率の危機がある中で、農業・農村が現状どうなっているのか、問題意識を国民に伝えること、日本の政府はその取組を実施していることが外国人にも伝わることが大事である。昨今の社会情勢も踏まえて、何か一つでもインパクトのある展示を検討して欲しい。

○農の危機意識などをもっと前面に出さなくてよいのか。農業従事者が少なくなっている、農地が減少しているという現実を提示すべき。農業従事者がどれだけ減少しているのか。スマート農業を導入すれば解決するという話ではない。そういうことをしっかりと伝えるべき。

○それを具体的に示すとどういうことか。

○農地が減少している状況を数字で示すなどすると良い。前々回の懇談会の際には、この状況を例示するのに食料が芋しかなくなっているという表現をしていたと思う。芋が良いかはさておき、それくらいのインパクトが欲しい。

○当初喜連川委員から教育の話を伺った際に大変共感した。NHK スペシャルなど、ビジュアルで表現しているものが既にあり、それを活用することでも良いと思っている。スマート農業も企業が提供しているものがいくつもある。そういう話はどこで表現するのか。

○今の技術の延長戦で、2年後をイメージする必要がある。現在出ている技術は LLM (Large language Models : 大規模言語モデル)、言葉を言葉で返すのが GPT (Generative Pretrained Transformer) などがあり、今や画像・映像分野まで進化している。ジオラマなどの表現は、2年後には誰も驚かない可能性がある。相当気を付けておく必要がある。もっと壮大なものにしないと、このあたりのコンテンツクリエイションコストはかなり下がる。それが技術として思うこと。

○「行動変容」、「若者世代への投げかけ」ということを言うのは簡単。園芸文化館でも理解させるとあるが、やや教科書的になっており、理解したか、行動変容が起きたのかについてイベントの中で確認が必要だと思う。過去のイベントでは、このようなこと（行動変容の計測）はやったことが無い。

- 本当に国民の行動変容が起きているのか、起きているとした場合、なぜこのような格差社会になっているのか、会期後に行動変容が起きたことを確認する必要がある。
- 文部科学省と連携し、子供たちにアンケートをとり、膨大な情報量を処理することも簡単にできる。
- 地政学の一環の農業生産という観点で、全人類から見たときに、どれくらいの自給率が必要なのか、無限ではなく有限であること、食料自給自足が問題で、戦争をやっている場合ではないということをメッセージとして子供たちに伝えるべき。
- 展示技術を公募するとあったが、是非大学やロボットなどを作れる高専を巻き込んで欲しい。高専は全国1都2府1道43県の各県庁所在地から少し離れたところに必ず存在している。国立大も86、全県にある。いかに巻き込むかが大事。東京から北海道のロボットを遠隔操作で動かす体験をすることは感動するかもしれない。
- 行動変容はここで展示を見たからといって、すぐに変わるという訳ではない。現在活動しているNPOや地方自治体が存在している。そういう団体などが継続して活動してきた成果を出して良い。
- 既に行っている小学校連携の一環として、あるイベントを通じて行動変容があったか記録して、成果として出すということでも良い。
- 本日提示した中で、この部分の展示は、進めてもらいたい、という意見ももらえばありがたい。良いところを見て欲しい。
- ただ注意点として、屋内展示のC5のイメージ画について、上部をウッディーな建物にして下部を暗幕のようなものを敷いてという手法が古典的な印象を受ける。フォーカスしないで羅列的にやるから古典的に見えてしまう。大胆に展示内容を検討しても良い。
- 懇談会委員がどういう形で寄与していくのか。今後の懇談会の在り方を示してほしい。
- 行程表にあるように開催まで2年を切る段階であり、今後は、部分部分を深堀した議論となることを踏まえ、今後の懇談会については、一同が介する委員会ではなく、必要に応じてその専門の委員に個別にご助言を頂きながら進めていくこととしてはどうかと考えている。
- 組織のありようにも関わるが、省内の他の部局を巻き込むことは出来るのか。

○今回の政府出展では、都市局だけでは知見が必ずしも十分ではないグリーンインフラ、流域治水等、緑の役割・機能を活かして防災・減災を図ろうという件については、総合政策局等で取りまとめを行っているので、そこからインプットをもらうこととしている。民間の力で緑化や温暖化対策に貢献していこうとする新たな制度もあるので、世界に向けた発信もかねて情報を集めていけるところ。より充実した内容にしたいと思う。

○大きなところの意見はもう議論されているとおりで自分も似たようなことを感じている。

スマート農業について、スタートアップ企業などと会う機会もあり、提示されている内容は違うと感じている。日本らしく、日本が勝っている技術を提示して欲しい。

○日本らしさが表現できる襖、雪見障子をいれてほしい。フランスの友人も襖はとても良いと言っている。

○提案として、様々な人物を紹介するD3のところで、5年間農水省、環境省、消費者庁で実施しているサステナアワードがあるが、大臣賞含めて受賞者、実践者、先駆者も沢山いるので是非そのようなところからも拾ってほしい。

○全国からのリモートの参加、来場した人が持つて帰れるコンテンツとして、出来ればデジタルコンテンツが良い。切り捨てずに今後も検討して欲しい。

○映像やレプリカなど、会期後のレガシーとして活用することを念頭に置いて作りこんで欲しい。

○屋内展示は、前回よりも原点に立ち返って良くなった印象を受ける。

○資料1の中に、文明と恩恵とあるが、風景的な屋内展示が多く、出したいと思っている畏怖と恩恵の話が無い印象。具体的な提案として、日本の自然観では稻作が重要。稻作では祭り（水口の祭祀、春の記念祭、秋の収穫祭など）が一つの象徴である。

○川の展示について、現在だけの目線ではなく、農と園芸を繋ぐ川の歴史的な背景も見せられると、より政府出展が川の流頭部に位置する意味が出てくる。

○大事な指摘を頂いた。P10で示す流域治水の観点がとても重要であり、これを屋内でグラフィックに展示ができればと思う。

○農業従事者が減っていき、自給率も40%も切っている状況で、農業現場では大規模にやっている農家もやめてしまうという現状もあり、この先の農業を危惧している。都市と農業がいかに融合し、国土全体を発展させていくのかということが重要になってくる。そういったことを前面に出

しても良いと思う。国交省と農水省が実施することなので、それぞれの政策の反映を目論んでいると思うが、もう少し歩み寄り、均衡な国土発展とはどういうあり方なのかということを展示することが良い。

○P20は、政府出展の主要展示として、D1にてスマート農業とグリーンインフラを分けている。

また自然共生技術とあるが、なぜ分けるのか。農地そのものがグリーンインフラである。グリーンインフラの隣に自然共生技術とあるが、農業自体が自然共生技術であり、だから国土にとって農地、農業は大事な事。なぜ細かく分けるか。細かく分けて小さなテーマにするから国民に伝わらない。言葉だけ覚えさせられる学校の試験のように思える。

○大阪・関西万博の状況が非常に良くないと思う。たまたま同じ「博覧会」という名前がついているので、比較されると思う。それぞれ違う博覧会だが、過去の博覧会を振り返ってもらいたい。

○園芸博と万博の違いは、園芸博は運動。全国で様々な活動がなされている。そのような活動を全部会場にするのが園芸博、たまたま会場が横浜だったというストーリーを作らないと、大阪・関西万博のミニ版と捉えられてしまい確実に失敗する。（万博と園芸博の）違いを発信する政府出展であってほしい。

○グリーンシステムという法律（みどりの食料システム法）を作ったことと同じこと。これは農水省の中ではどの部門がやっていることなのか。

○みどりの食料システム戦略については、農産局だけではなく林野も水産も含め農水省をあげて取り組んでいる。プラネタリーバウンダリーということで、地球の危機が迫っているというところから2050年に向けて抜本的で持続的な視点から推進している。

○グリーンインフラという言葉は出てくるが、展示の中でグリーンシステムは出てこないのか。

○言葉としては、「グリーンラボ2027」の中で現在の取組としてみどりの食料システム戦略を紹介し、その後のエリアで将来の姿として技術に寄った形で紹介をしている。

○農水省は昔から生産本位であった。生産性を向上させ、サラリーマン並みの所得をということだけを言ってきた。経済活動だけにフォーカスしていた。だが現状は、農民だけでは貢えない問題となっている。もう国民的な問題。都市型の農業もあれば、自給しているオーガニックファームなど都会人が営む農業もある。古い時代の都市農業ではなく、地球の危機に直面した都市型農業とは何か、それは市民に参加してもらわなければ成しえないこと。農業者が全ての責任を負う時代ではない。

○園芸業界として、花いっぱいにしたいということは判らないわけではないが、大前提として思想がない。

○大規模農業の話として、グリーンシステムを紹介していない。食料生産システムはどうなのか。

○祭りの話で、水循環の例として先日世界農業遺産の棚田を見てきたが、すべてに説明がついていた。水循環は日本の国土として水田を作り、田植えから収穫をし、五穀豊穣を願い収穫祭のようなお祭りとなった背景がある。神社は信仰ではなく日本の文化、国民的文化である。文化とは、芸術的な屏風絵だと思っているかもしれないが。日本文化は殆ど農業が基盤になっている。

○人の目の引く事例であれば広島の壬生の花田植えがあり、写真や動画などが思い浮かぶ。日本各地の御田植え祭りは意味が深いものなので、展示に取り入れると良いと思う。田植えは大事。

○祭りは芸能となっているが、日本の文化は稻作であり、そういうことをインバウンドに伝えたほうが良い。海外のオクトーバーフェスも収穫祭。日本文化の根底にあるという表現をフォーカスする必要があると思う。

○大阪・関西万博の日本館のニュースでも出ていたが、直前にどのようなPRができるのかを考えている。日本庭園は素晴らしい要素で、他の博覧会ではこういった空間は設けられない。開催地も大阪のような埋立地ではなく、伝統のあるプレシャスな土地であることも売りになる。また盆栽も魅力のあるコンテンツのひとつ。それを軸にトータルでやっていることをどう見せていくかとなった場合に要素だけ並べると、今朝のニュースの様に日本館は色々と展示するにもかかわらず、結局、建築とコンセプトと火星の石だけと一部だけ切り取られて報道されてしまう。同様に日本庭園と建物と盆栽が切り取られ、本当に訴えたいことが伝わらない可能性がある。大阪・関西万博の日本館がどうPRされるのかを横目で見ながら、園芸博覧会の柱として日本出展を出していきたい。政府出展は比較されるので、軸をきちんと整理しておく必要がある。

○進士先生と現地に視察に行き、各場所でポイントとなる景をあり方について、景をひとつひとつ作っていく流れが大切だというご助言を頂いた。概ね屋外は担保出来ていると思うが、基本的な流れを屋内と屋外を融合させて作っていくことをしっかり考えていきたい。屋内展示は基本設計のタイミングなので、その点をしっかり踏まえて協会として支えていきたいと思う。

○各先生からご指摘を反映させながら、今までに実施設計の完成に向けて取り組んでいる。

P8、P9について、日本政府出展としてどういう日本庭園を発信していくかということを取りまとめて、このような風景になっている。日本庭園とは、自然の恵みを受け継ぎ、どのように表現していったかということが日本人の文化だと思っている。それを様々な花の素晴らしさや園芸の素晴らしさ、植物の素晴らしさに気づいて最後に政府展示にたどり着いたとき、日本の自然とい

うのはこんな素晴らしい、日本の自然を表現した日本庭園の文化というのはこんなに素晴らしいということを、ぜひとも表現できたらと思っている。

○菱田春草が武蔵野の雑木林を絵画として表現した、絵画の中の雑木林、逆に日本の自然を造園家や園芸家が取り組んでどのように日本庭園・日本の庭として表現してきたかということをしっかりと発信できるよう、実施設計として取り組んでいるところなので、ご指導お願ひします。

○添付1の教育プログラムで、委員の先生からのレガシーはどうなっているのかという話をしっかりと受け止めて教育プログラムを作っているところ。横浜市の小学校を巻き込んでいきたい。探究学習は文科省の方で学習としてあるところだが、やはり教科書的。政府展示は逆に教科書的だからこそ子供たちが学び、探究を深める機会もある。このプログラムに関しては、国交省・農水省のシステムを情報提供できる機会として設けながら、まずは和泉川流域で勉強していく形。これは一つのモデルケースとして、全国の探究学習のモデルとなるようにしたい。

○まずは協会や横浜市と協議をしているところ。協会と共に歩調を合わせながら、政府出展の和泉川流域でのケーススタディ、一つの目玉として成長させたい。

○横浜市の小学校とドーハの日本人学校との間で3年程活動をしている。なぜ継続できているかというと探究課題にしっかりと則り、教師がしっかりと指導出来ているから。この事例を参考にしながらプログラムを検討していきたい。

○東側に農地があり、ここに毎日、子供たちがいっぱい来るようにしてほしい。

○色々ご意見を貰った。色々言われてきたことを、ただ並べているようになっている。思い切って決められればよいのだが、思い切れない事情もある。絞り込みと思想を表現する部分を実施設計では詰めていきたいと思う。

○冒頭で説明した通り、(屋外展示、建築設計は)実施設計をまとめる、(屋内展示は)基本設計の段階である。文字にしているのは会議体として物事を決めていくということで、やむを得ずこの形をとっているが、コンセプトはもっとわかりやすくということで整理したつもりでいる。その後にナラティブという物語性を5つあげて整理をして、屋外は概ね整理できたと思う。

○日本庭園と言わず、令和日本の庭と言っているが、これは日本発の世界に共通するようなNbS社会、30by30などそういう時代の屋外空間はどうあるべきか、ということを提案していることとしてご理解いただきたい。

○屋外では3つの園としているが、これはあくまでも作業仮説である。一つの方向を見ながらまと

めていかないと「素晴らしい庭」という感想は頂けない。全体では令和日本の庭、令和という時代に作った庭として、きっちり整理したいと思う。併せて屋内との連携をもう少し強くあっても良い。どんな意見でも受け止める、ただ若い人材が育つことが大事なレガシーであると思ってるので、それを踏まえてしっかりやっていきたいと思う。

○今後の進め方は了解を得たので、実際に有効的に先生方のご支援を頂きこのイベントを成功させたいと思う。

以上